

## ウツセミカジカ *Cottus reinii* Hilgendorf

### 【選定理由】

河川の直線化およびコンクリート護岸化に起因する土砂堆積量の激減および隠れ場所の消失等、生息条件が悪化しているため、生息個体数が著しく減少していると推定される。全国的にもきわめて危険な状態にあり、絶滅が危惧されている。

### 【形態】

全長 15cm 程度。体表に鱗がなく、胸鰭が大きい。体色は淡褐色から暗褐色まで様々で、体側に暗色斑紋が 4～5 個ある。カジカに酷似するが、本種は胸鰭条数が多いこと (15～17 本)、尾柄が細いこと、卵が小さいことなどで区別される。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

矢作川、豊川等の水系。

#### 【国内の分布】

北海道から九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

### 【生息地の環境／生態的特性】

本種は両側回遊魚であり、3～5 月に繁殖し、孵化後仔魚は海に降りる。一腹卵数は 600～1,500 個程度とされる。主に礫底で産卵し、雄は孵化まで卵を守る。動物食性で、水生昆虫や甲殻類などの底生動物を餌として利用する。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

河川の直線化による緩流部の喪失による砂底あるいは砂礫底の減少、浮き石の埋没、本流から遡上できる細流の消失等により生息適地が減少している。

### 【保全上の留意点】

本来は県内の広範囲に分布していたものと推測される。堰堤による遡上阻害を軽減するとともに、産卵場所となる河床環境を修復・復元する必要がある。

### 【特記事項】

環境指標種とされることも多い。カジカ (小卵型) から名称が変更された。

### 【関連文献】

後藤 晃, 1989. ウツセミカジカ. 川那部浩哉・水野信彦 (編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚, p.668. 山と溪谷社, 東京.  
木村清志・岡田 誠・山下剛司・谷山 泉・淀 太我・廣瀬 充・佐土哲也・木村文子, 1999. 長良川河口域に出現する魚卵・仔稚魚. 三重大学生物資源学部紀要, 23: 37-62.

(谷口義則)